

# VASCULAR ACCESS NEWS Web Vol.21

## 快適な透析環境



森のクリニック  
医学博士  
川野 光一 先生

Sustainabilityという言葉聞いたことがありますか？

サステナブルな医療の取り組みは、財務的な面のほかに、環境の側面（環境保護活動）、社会的な側面（従業員に対する取り組み、社会貢献活動）が挙げられます。サステナビリティと企業の社会的責任（CSR）とは切り離せない関係にあり、サステナビリティを念頭に企業活動を行なうことで企業の社会的責任を果たすことになり、企業の社会的責任を果たすことでサステナビリティを向上させることができます。ちょっと禅問答のような難しいことを冒頭から述べましたが、今日は、サステナブルな透析について考えてみたいと思います。

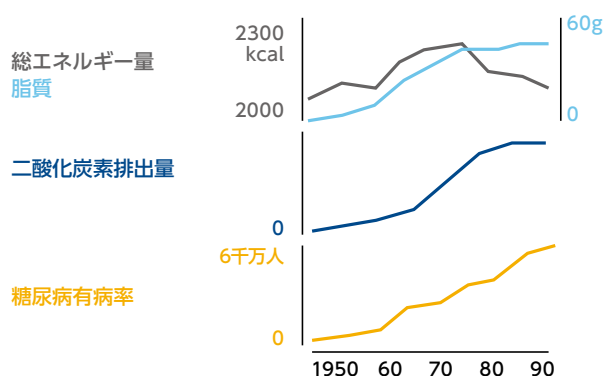
透析クリニックは現在のところ赤字を出さず財務的には優良企業の仲間に入れるでしょう。しかし、環境側面や社会的側面はどうでしょうか。この3つをトリプルボトムと言いますが、効率よく3つが働いているのでしょうか？医療、特に透析は環境とは真逆に向っています。透析患者1名の排出するCO<sub>2</sub>は健常人の約3倍です。医療廃棄物（正式には特別管理廃棄物である感染性廃棄物）はディスプレイ製品が多く、ほとんど回収リサイクルされていません。また、透析用水製造のための大量の水資源の利用や体温まで水温を上昇させるための莫大な熱エネルギーを消費します。

社会的な側面では、透析の原疾患である糖尿病の有病率は車社会へのライフスタイルの変化によるCO<sub>2</sub>排出量や食生活の変化と相似しています。言い換えれば、生活習慣病なのです。

サステナブルな透析によってこの課題は解決されるのでしょうか。人類はライフスタイルを変える低炭素社会や食の構築がまず必要です。

では、具体的な取り組みを掘り下げていきましょう。透析患者さんは毎月40万円ほどの医療費を必要とします。これは平均的なサラリーマンの月収と同額です。一人の生産性を奪っていることになりませんが、健康保険というストックを使用して患者さんは働くことによりフローとして40万円を得、治療に要した同額も医療スタッフや医薬品企業のフローとして経済循環しています。サステナブルといえませんか。働く透析患者さん支援策として当院ではオーバーナイト透析を実施しています。夜10時～翌朝6時までの8時間透析です。寝ている間に行われるので、実際に感じる透析時間は1時間くらいのものだそうです。夜間や就寝中の副交感神経が優位なときに、成長ホルモンは分泌されます。

糖尿病有病率とライフスタイルの変化



引用文献：第55回日本病院学会講演資料、環境白書より

成長ホルモンは、体組織の修復・再生をする働きがあるため、体を修復し、体力を回復させることで、同時に体の病気への抵抗力・免疫力を高める働きがあります。オーバーナイト透析にはこのような効能もあるのではないかと考えています。これらの透析患者さんはオーバーナイト透析が「快適な透析環境」と考えています。

「快適な透析環境」は患者さんの立ち位置により変わります。内科的領域ではより良い透析医療を皆さん望みますが、4時間～8時間を過ごす環境では個人の「想い」が中心となります。先ほどご紹介したオーバーナイト透析では「寝ながら透析できる」ことが快適です。介護の必要な方は見守りベッドが快適でしょう。一般の透析患者さんは人の視線や話声や感染を気にされますのでパーティションで区切られた個室風空間を好まれます。当院では患者さんの目線では個室、医療スタッフの目線ではキッチンとみまもりができるパーティションでベッドを区切っています。このことは感染対策に効果があり、かつ、医療従事者／患者の会話の促進に大きく貢献しています。患者さんにとっては他の人に聞かれない自分だけの空間となるのです。これは快適です。さらに、医療上の快適という見地から全台オンラインHDFが可能で、2台のセントラルから異なる2種のカルシウム濃度の透析液を送っています。6台の個人器を備えて酢酸不耐症の方や感染症をお持ちの方専用として廻しています。このようにオーダーメイドに近い処方透析によって「快適な透析」を目指しています。



生まれも育ちも東京の私が10年前に宮崎に移住し、妻と一緒に建てた森のクリニックはまさにどんぐり100年の森の中にあります。宮崎市内の高台に、東京では実現できない5000坪の広葉樹林に囲まれた大自然の中でゆったりと個室感覚のスペースでの快適な透析を実現しています。診療報酬、薬価は今のところ全国共通ですので、こんな事が実現できるのだと思います。

将来は私どもの夢である「医療リゾート」を実現したいなと思っています。高齢化する日本で住み慣れた都会から医療付きのリゾートに移住して暮すCCRC (Continuing Care Retirement Community) のようなスタイルです。

週末の金曜日の透析が終わり、午後便で東京へ、孫達と夕食を囲み、土日をゆっくり東京で過ごし、日曜日の夕方、または月曜日の朝の便で医療リゾートに戻る。帰京しない週は仲間とフェニックスでゴルフをしたり海に出かけ、釣を楽しんだり、霧島の足を延ばして温泉に浸かる。このような生活を提供出来ることが今の夢です。宮崎にはこのような「快適な透析環境」が備わっています。持続可能な医療を地方創生を兼ねて実現したいという思いが強くなっている昨今です。



日本コヴィディエン株式会社

お問い合わせ  
0120-998-971

[medtronic.co.jp](http://medtronic.co.jp)

**Medtronic**